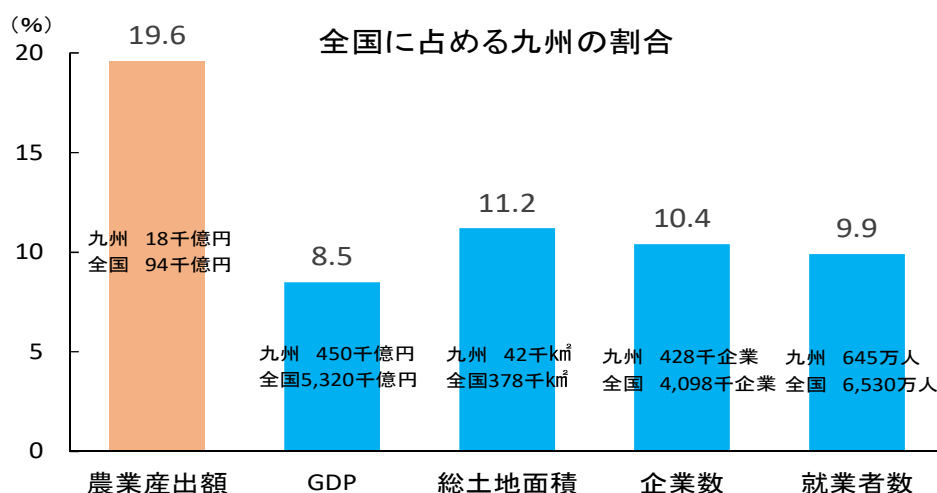


構造 — 九州農業の特徴 —

【九州は日本の食料基地】

九州は「全国の1割経済」といわれている中、農業産出額は全国の2割を占めており、九州は農業が盛んで日本の食料基地となっています。

また、部門別農業産出額の全国に占める割合をみると、畜産や畑作物では約1/4を占めているほか、野菜、果実でも様々な品目が全国順位で上位となっています。



資料：農林水産省「平成29年生産農業所得統計」

総務省「平成26年経済センサス基礎調査」、「平成27年国民経済計算」、「平成27年県民経済計算」
国土地理院「平成29年都道府県市町村別面積調」、総務省統計局「平成29年労働力調査結果」

注：農業産出額とは、農業生産活動による最終生産物の総産出額であり、品目別の生産量に農家庭先価格を乗じて得た額を合計したもの（売上総額のイメージ）。

九州の農畜産物の全国に占める割合及び九州各県の全国上位品目

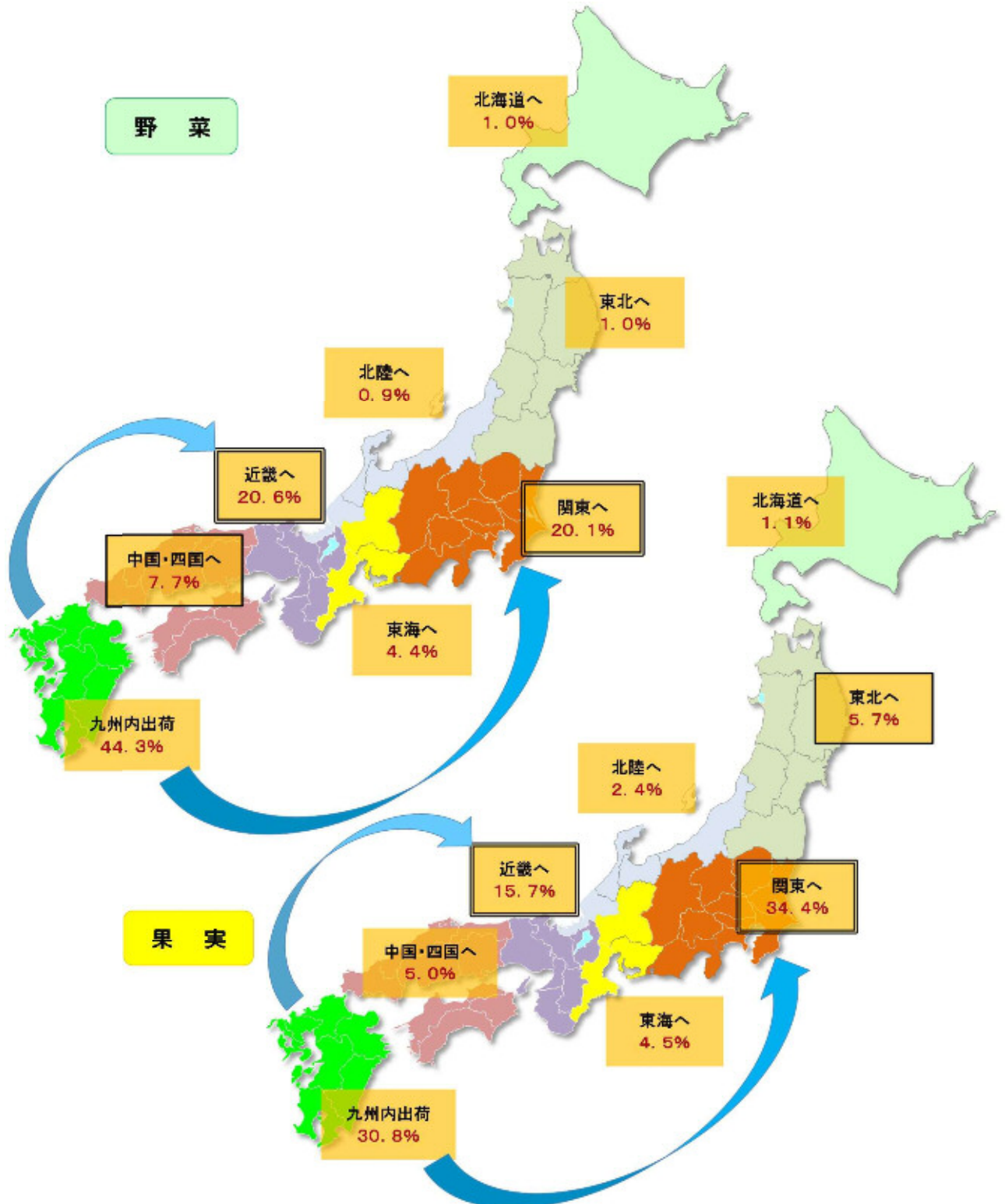
	九州の割合	九州の割合		主産地		
		品目	全 国 シェア	県名	全 国 シェア	全国 順位
野菜	18.8	きゅうり	22.0	宮 崎	12.4	1
		トマト	28.9	熊 本	18.9	1
		すいか	22.7	熊 本	17.3	1
		なす	22.8	熊 本	10.7	2
		ピーマン	36.3	宮 崎	20.8	2
		いちご	33.4	福 岡	12.4	2
		ごぼう	22.5	宮 崎	9.1	2
果実	14.9	びわ	50.0	長 崎	32.4	1
		くり	25.9	熊 本	18.5	2
		キウイフルーツ	24.4	福 岡	19.8	2
		みかん	31.0	熊 本	8.8	4
畑作物	23.4	葉たばこ	47.4	熊 本	16.3	1
		二条大麦	32.7	佐 賀	17.8	2
		茶(生葉)	40.0	鹿児島	27.0	2
		さとうきび	38.8	鹿児島	38.8	2
畜産	25.0	肉用牛	42.1	鹿児島	17.4	1
		豚	29.4	鹿児島	12.7	1
		ブロイラー	46.3	宮 崎	19.6	1

資料：農林水産省「平成29年生産農業所得統計」

【九州の青果物の多くは関東・近畿へ出荷】

市場出荷された九州産の青果物は、その多くが九州以外の地域へ出荷されており、特に野菜及び果実ともに関東と近畿への出荷割合が高くなっています。

青果物の全国地域出荷割合



資料：農林水産省「平成29年青果物卸売市場統計」

構造 — 農業産出額 —

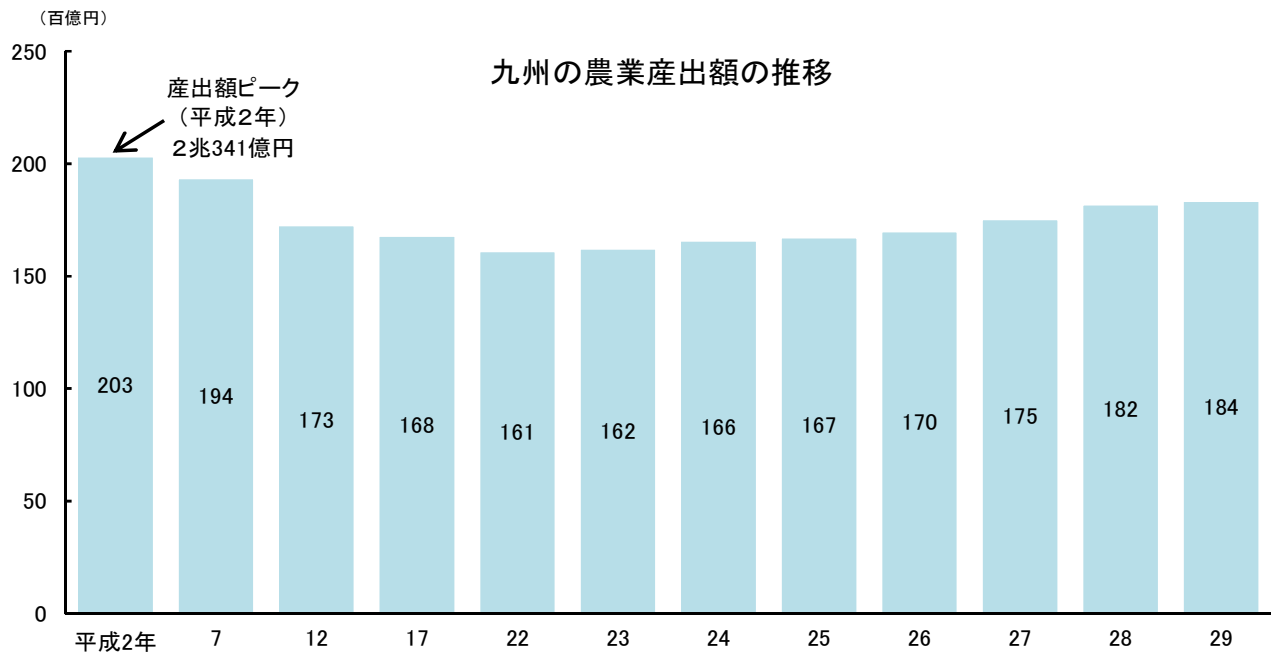
【農業産出額は7年連続増加】

平成29(2017)年の九州の農業産出額は1兆8,356億円で、主として肉用牛など畜産部門の伸びを背景に7年連続で増加しています。

部門別にみると、全国に比べて米の割合が低く(全国18.6%、九州10.2%)畜産の割合が高くなっています(全国35.4%、九州45.3%)。

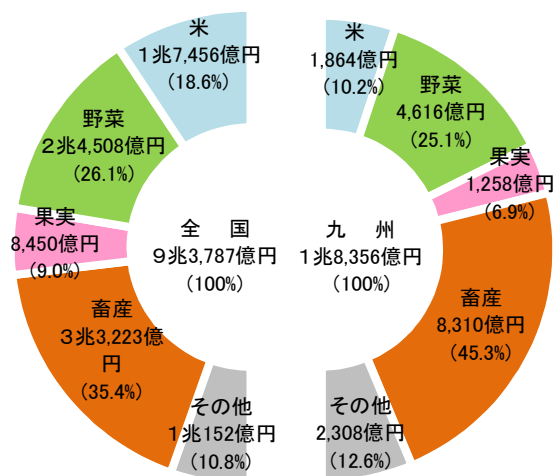
このほか温暖な気候を活かし野菜(九州25.1%)や果実(九州6.9%)の生産など多様な農業が展開されています。

また、昭和40(1965)年の産出額と比較してみると九州の伸びは全国を大きく上回っており、特に野菜や畜産が大きく伸びています。



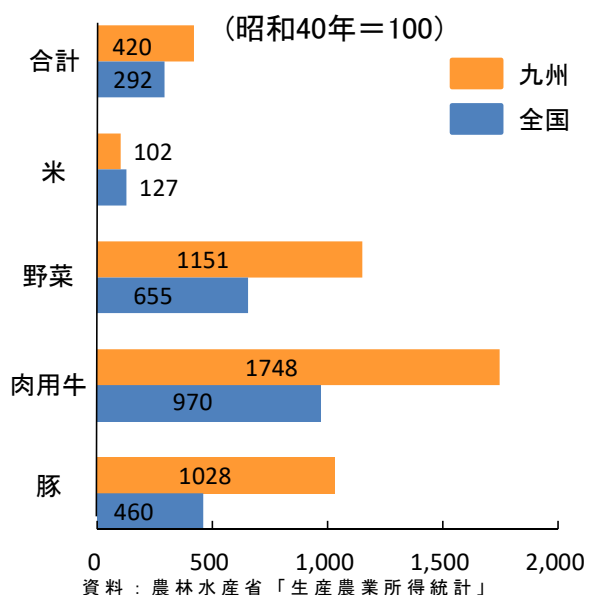
資料: 農林水産省「生産農業所得統計」

部門別割合(平成29(2017)年)



資料: 農林水産省「生産農業所得統計」

昭和40年の産出額との対比(平成29年)



【畜産や野菜が増加】

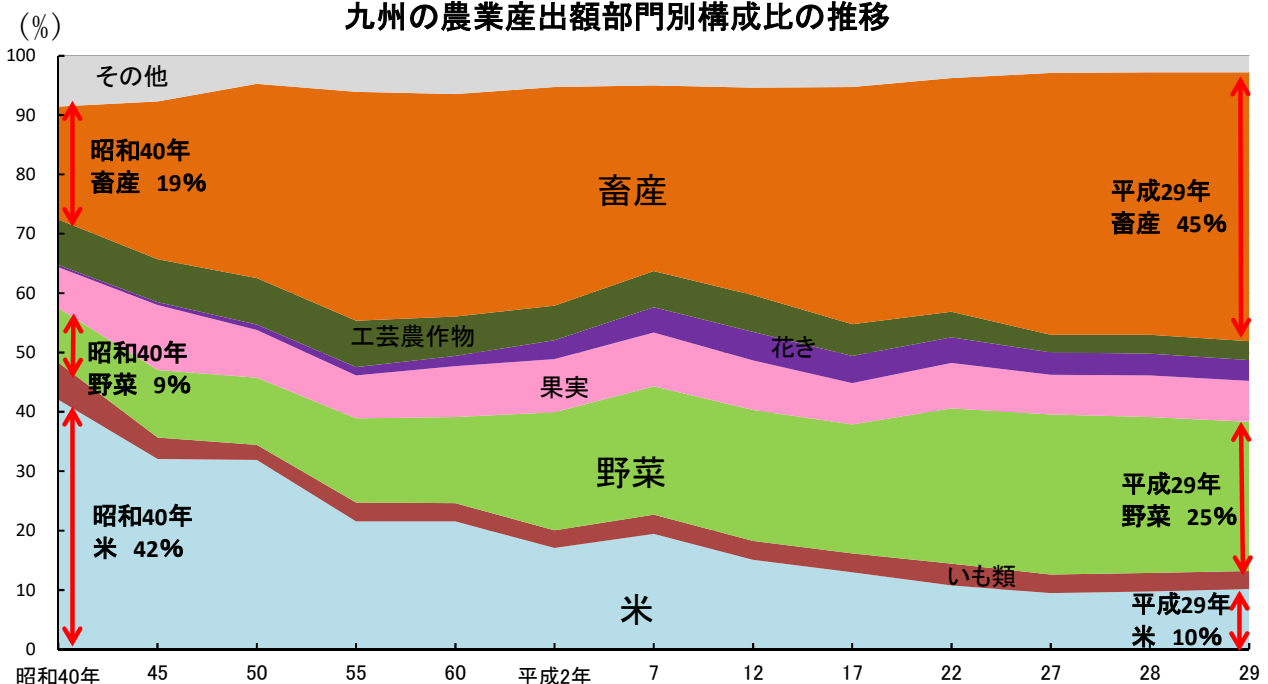
九州の農業産出額の部門別の構成比をみると、昭和40(1965)年は19%だった畜産が平成29(2017)年には45%に、野菜は9%から25%と大幅に増加しました。

一方、米は42%から10%と大幅に減少し、米を中心とした農業から野菜畜産を中心とする農業へと推移しています。

その結果、農業産出額の全国上位10県に昭和40(1965)年は1県も入っていませんでしたが、平成29(2017)年は畜産や野菜の生産が盛んな鹿児島、宮崎、熊本の3県がランクインしています。

なかでも鹿児島県の農業産出額は初めて5,000億円に達し、平成18(2006)年以来の全国2位となりました。

九州の農業産出額部門別構成比の推移



農業産出額全国上位10県の推移

単位: 億円

	昭和40年		昭和63年		平成29年	
1位	北海道	2,033	北海道	10,721	北海道	12,762
2位	茨城	1,330	茨城	4,798	鹿児島	5,000
3位	新潟	1,274	千葉	4,206	茨城	4,967
4位	千葉	1,195	鹿児島	4,186	千葉	4,700
5位	福島	1,063	熊本	3,759	宮崎	3,524
6位	静岡	983	新潟	3,755	熊本	3,423
7位	埼玉	966	宮崎	3,486	愛知	3,232
8位	長野	954	愛知	3,425	青森	3,103
9位	宮城	886	長野	3,186	栃木	2,828
10位	愛知	886	静岡	3,031	岩手	2,693

資料: 農林水産省「生産農業所得統計」

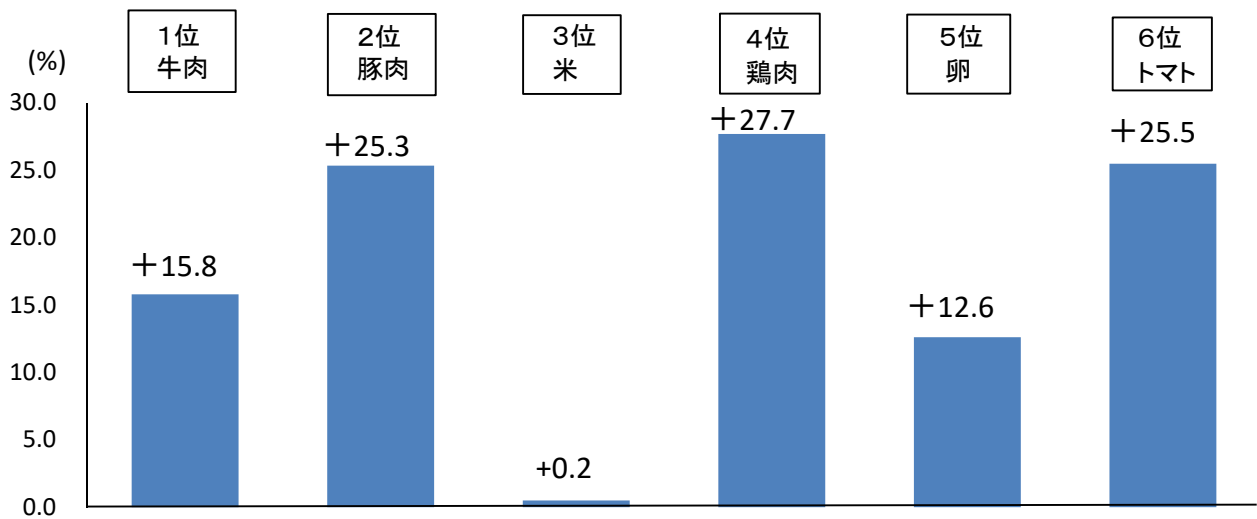
【九州は消費動向に対応した農産物を生産】

九州の農業産出額の上位品目は、肉用牛、豚、鶏のほか、米、トマトとなっています。

これら上位品目の家計消費の動向をみると、近年、米を除いて支出金額の増加率が高い品目が多くなっています。

特に牛肉では購入単価が大きく伸びているほか、豚肉、トマトでは購入数量、購入単価ともに増加しており、このように消費が強い品目の生産を主体としていることが九州の農業産出額の伸びの要因となっています。

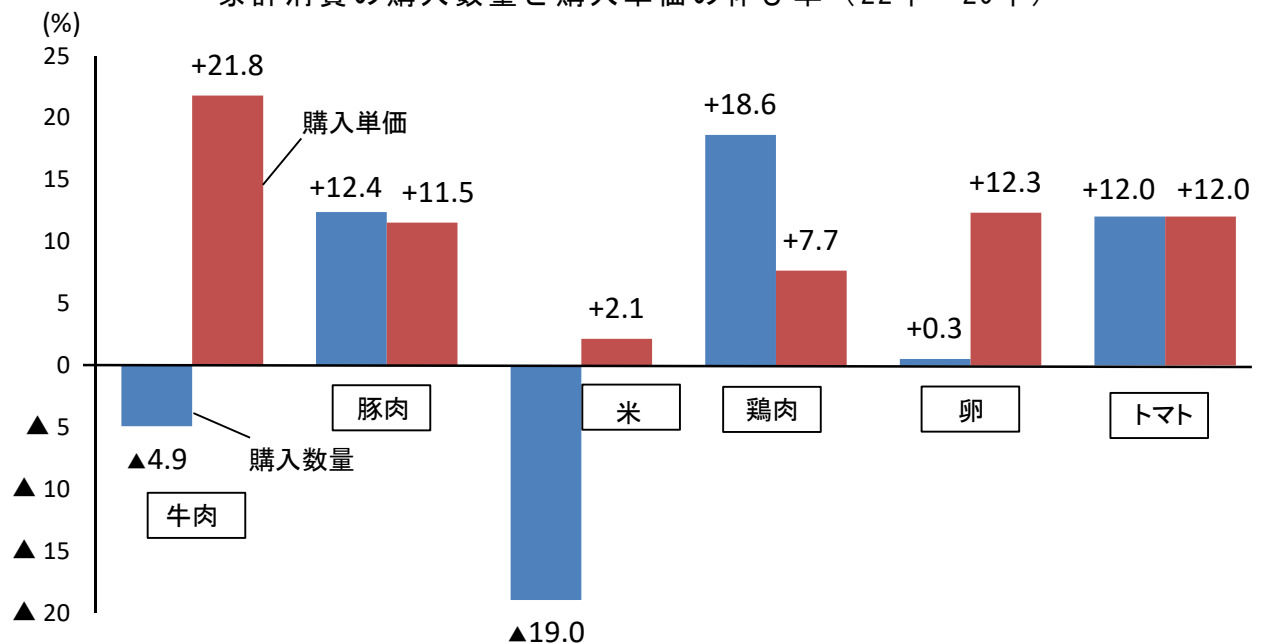
農業産出額上位品目（29年）の家計支出金額の伸び率（22年→29年）



資料：総務省「家計調査」

注：二人以上の世帯の数値である。

家計消費の購入数量と購入単価の伸び率（22年→29年）



資料：総務省「家計調査」

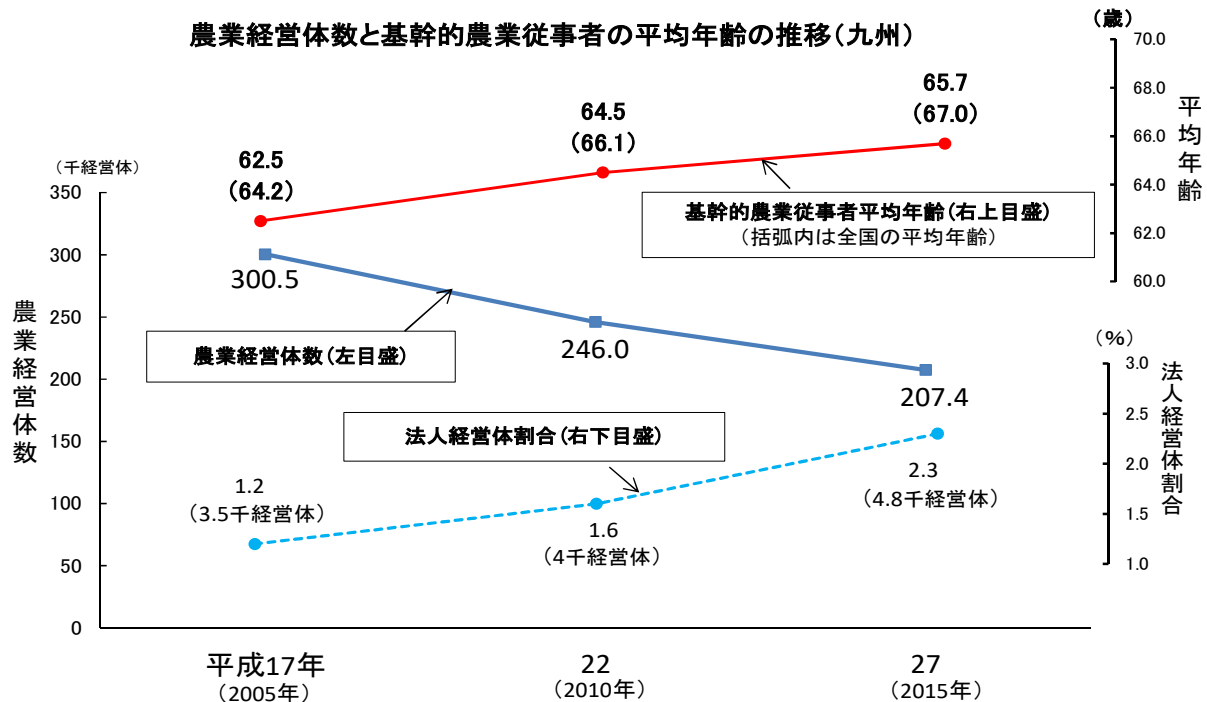
注：二人以上の世帯の数値である。

構造 — 農業経営体 —

【農産物販売金額5,000万円以上の農業経営体の割合は全国を上回る】

基幹的農業従事者の平均年齢は65歳を超え、農業者の高齢化が進んでいます。また、農業経営体数は10年前に比べると約70%となっていますが法人化している経営体は増加しています。

こうした中、畜産の盛んな宮崎県、鹿児島県を中心に販売金額の大きな農業経営体が多くなっています。



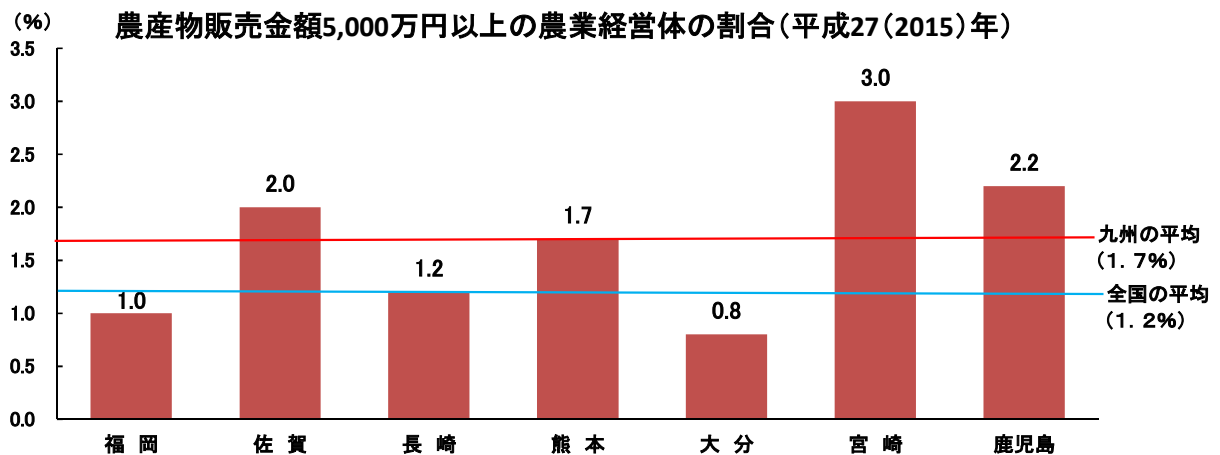
資料：農林水産省「農林業センサス」

注1：基幹的農業従事者とは、販売農家の数値であり、自営農業に主として従事した世帯員（農業就業人口）のうち、普段の主な状態が「主に自営農業に従事」である者で、主に家事や育児を行う主婦や学生等は含まない。

注2：農業経営体とは、経営耕地面積が30a以上の規模の農業、又は販売金額50万円以上に相当する規模の農業を行う者（農作業の受託を含む。）。

注3：法人経営体とは、農業経営体のうち、法人化して事業を行う者。

注4：法人経営体割合＝法人経営体／農業経営体



資料：農林水産省「農林業センサス」

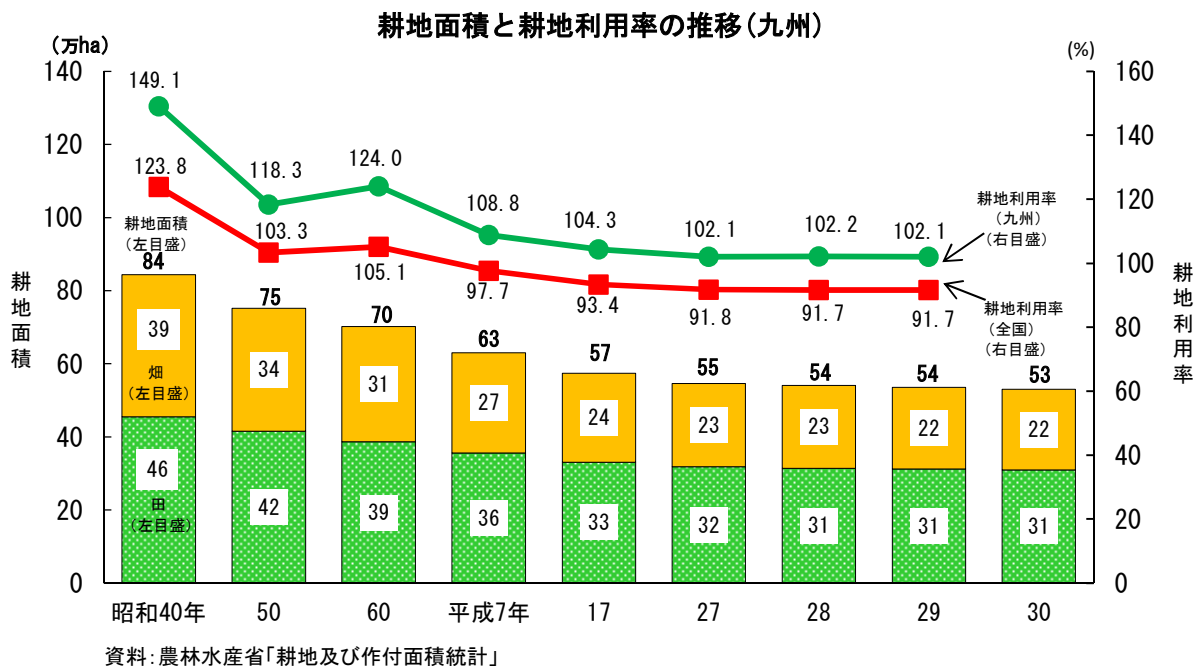
構造 — 耕地面積 —

【耕地面積は52万9,900ha、耕地利用率は102.1%】

九州の耕地面積は全国（442万ha）の約1割を占めています。

担い手の高齢化による荒廃農地の増加、宅地や道路等への転用により、この10年では年平均約3,400ha程度（0.6%）の減少で推移していますが、荒廃農地対策の推進等もあり、減少幅は緩やかになってきています。

耕地利用率は全国平均を大きく上回る102.1%となっており、福岡県や佐賀県では水田を活用した裏作麦、宮崎県では飼料作物の作付けが盛んです。



九州各県の耕地及び作付延べ面積と耕地利用率（平成29(2017)年）

